

ふるさと歴史アラカルト

大坂の陣に関する暗号文

現在、ドラマでも取り上げられている戦国武将の真田信繁（幸村）ですが、信繁の活躍として注目される戦いに、慶長19（1614）年、20年の大坂の陣があります。これは、関ヶ原の戦いの後に江戸幕府を開いた徳川家康が、かつて天下を統一して大きな力を持っていた大坂城の豊臣家を、政権安定化のために攻め滅ぼした戦いです。このとき豊臣側だった信繁は、家康をあと一歩のところまで追い詰める活躍をしたものの、敗れて戦死しています。

大坂の陣では、関ヶ原の戦いの際には家康と敵対していた島津家や毛利家なども豊臣秀頼の要請を断り、家康側につきましました。しかし毛利家は、家臣の内藤元盛を佐野道可と改名させ、秘密裏に大坂城へ入れたと伝えられています。このことは、豊臣家への恩義とも豊臣側が勝利した場合の布石ともいわれてきましたが、近年の研究では、道可の大坂城入りと毛利家は無関係だったとする説も出ています。

道可の大坂城入りに毛利家が関わっ

ていた根拠となる史料の一つに『吉川家譜』に収録されている二通の書状があります。この書状は毛利家の重臣福原広俊が吉川広家に宛てたもので、通常の書状とは異なり、暗号で書かれています。

暗号といっても読み方はシンプルで、逆から読むだけです。暗号となつていることから、重要な内容であったと考えられます。「このことが世の中に漏れたら、家の一大事となる」と始まるこの書状には、毛利秀元が秘密裏に秀頼を支援していることと、秀元の策略が一部の家臣に漏れ、彼らが秀元を暗殺すると言っていることが記されています。つまり秀元が秘密裏に道可を大坂城へ入れたことを示す内容となっています。

現在、この書状の原本が存在していないこともあり、道可の大坂城入りと毛利家が無関係とする研究者は、書状そのものが『吉川家譜』を編さんする際に創作されたものと考えています。真実はどうなのでしょう。

岩国徴古館

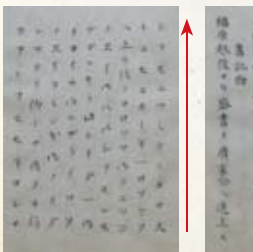
昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

※1 吉川家譜：吉川家の歴代当主ごとに、当時の書状の写しなどを集めたもの。吉川経幹により編さんが始められ、明治期に完成した。

※2 毛利秀元：毛利元就の四男元清の子で、一時、毛利輝元の養子となつていた。後の初代長府藩主。

『吉川家譜』(吉川史料館蔵)左ページの片仮名の部分が暗号文「大坂にて密に申し上げ候儀、如何にも事実にて御座候、この儀世上へ漏れ申し候は、御家の御一大事、此時に御座候」



岩国市 人口・世帯

人口 139,049人【前月比 - 112人】 男性 65,883人 女性 73,166人

世帯 66,428世帯【前月比 - 56世帯】 ※外国人人口を含む（平成28年6月1日現在）

交通事故発生件数 5月分事故件数 52件(200件) 死者数 5人(5人) 傷者数 65人(244人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成28年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337